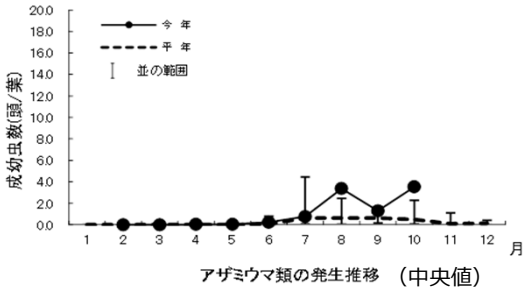
平成　29 年度

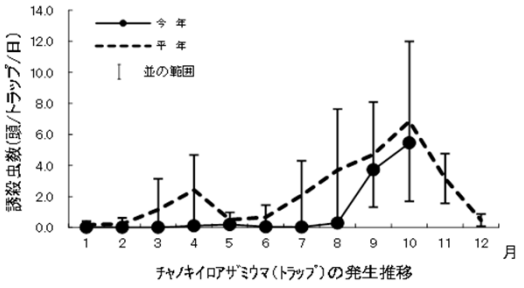
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
10 月の発生量（現況）	ややや多		
11 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移、新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

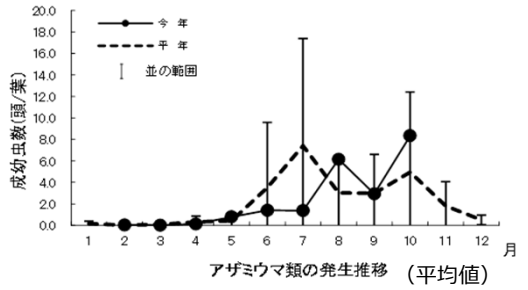
- 10月中旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数（中央値）は3.5頭（前年1.3頭、平年0.5頭）と平年よりやや多かった。
- 黄色粘着トラップへの日・トラップ当たり誘殺虫数は5.5頭（前年3.0頭、平年6.8頭）と平年並であった。

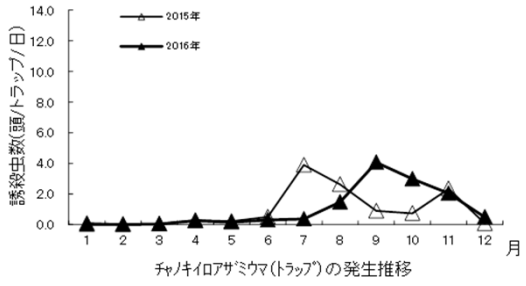
（今年のデータ）





（過去２年のデータ）





防除のポイント

- 不要な新梢は、早い時期に除去する。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成29年度病害虫発生予報第５号（平成29年７月27日付）コラム参照。

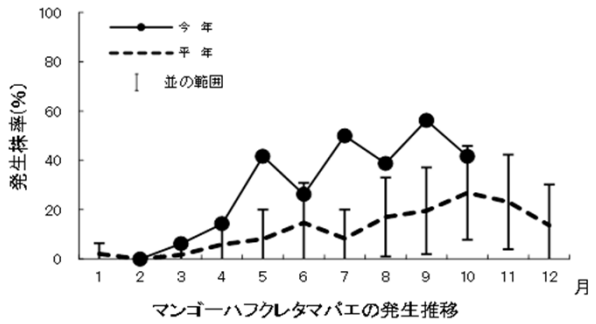
平成　29 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
10 月の発生量（現況）	並		
11 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の発生推移、新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

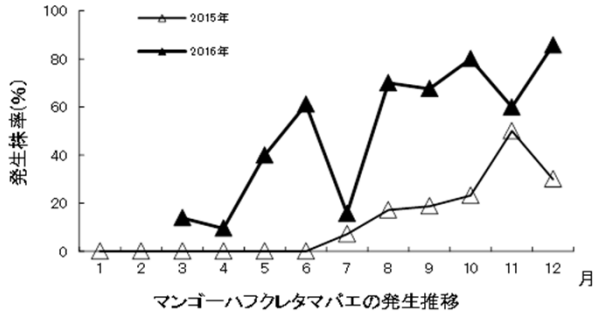
・ 10月中旬の調査の結果、発生株率は41.7%（前年80.0%、平年26.8%）と平年並であった。

（今年のデータ）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

（過去２年のデータ）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

・平成29年度病害虫発生予報第５号（平成29年７月27日付）コラム参照。

平成　29 年度

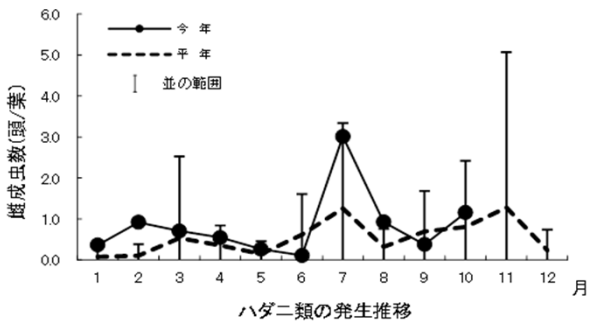
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
10 月の発生量（現況）	並		
11 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

・ 10月中旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は1.2頭（前年2.4頭、平年0.8頭）と平年並であった。また、新葉の葉当たり雌成虫数は0.4頭であった。

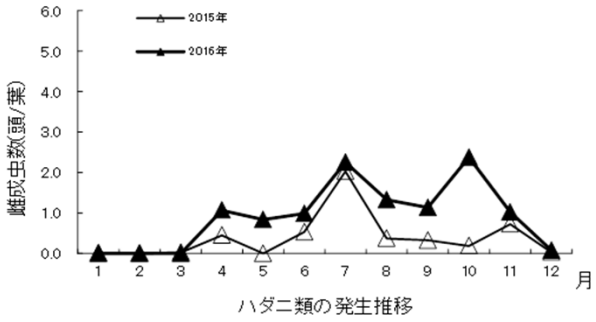
・ 発生種は全てシュレイツメハダニであった。

（今年のデータ）



ハダニ類の発生推移

（過去２年のデータ）



ハダニ類の発生推移

防除のポイント

・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

・平成29年度病害虫発生予報第５号（平成29年７月27日付）コラム参照。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状